

# (12) 中村南小学校

学 校 長 山 脇 克 仁  
校内研究代表者 岡 田 由 佳

## 1. 研究主題

「自ら考え、判断し、表現できる児童の育成」  
～論理的思考力を高める研究を通して～

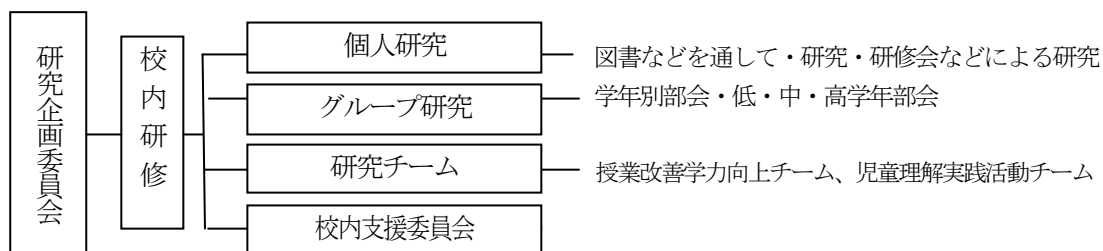
## 2. 研究主題設定の理由

本年度は、「プログラミング推進事業」の研究指定校に指定された。本校は長年に渡り、「自ら考える」と「関わり」を大切にきた道徳教育の研究を進めてきており、よりよく生きるために自ら課題をみつけ、判断し、解決していこうとする児童の主体性を育てていくための授業を工夫し、様々な関わり合いの中で推進してきた。この基盤のもと、今年度は、研究主題である「自ら考え、判断し、表現できる児童の育成」を目指して、プログラミング教育の先行事例を参考に、問題解決に向けた必要な手順があることに気付かせたり、発達段階に応じた「プログラミング的思考」を育成したりしながら、ICTを活用したプログラミング教育の授業づくりを行うことで、論理的思考力を高め、新学習指導要領で求められている資質・能力を育成することとした。

本年度の研究主題を具現化していくために『児童自身が他者との関わりの中で、論理的思考力を高め、判断し、表現できる力を伸ばしていくこと』を重視し、自分たちの教育活動をふり取りながら取り組みを進めていきたい。そして、この主題に迫るべく、各研究組織や研究チームを活用し、学校教育目標の通り、「知・徳・体」の調和のとれた「豊かでかしこくたくましい」児童を育成していくために、みんなで英知を結集し、より充実した校内研究を進めていきたい。

## 3. 研究の進め方と方法

### ①研究組織




\*企画委員会・・・第1月曜日の16:00～校長、教頭、事務長、教務、研究、

\*研究企画委員会・・・第2月曜日の16:00～校長、教頭、教務、研究、研究チームリーダー、道徳教育推進教師

\*校内支援委員会・・・第4木曜日の16:00～教頭、特別支援教育コーディネーター、特別支援学級担任、養護教諭、児童理解TR（場合によっては、該当児童の学級担任にも参加してもらう。）  
特別な支援を必要とする児童の実態把握と支援体制

### ②研究チーム

	授業改善・学力向上チーム	児童理解・実践活動チーム
研究目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラミング教育を通して育成すべき資質・能力の向上を図る。</li> <li>・基礎学力の定着と学力の向上を目指す取り組みを学校ぐるみで推進する。</li> <li>・児童の学力状況を把握し、全校での学力向上策を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳的実践の充実を目指して、指導内容の重点化と総合的な推進を図る。</li> <li>・家庭・地域社会と連携して取り組む道徳教育の推進を図る。</li> <li>・人権学習を基盤としながらお互いの良さを認め合い、支え合える仲間づくりを目指す。</li> </ul>

取 組 み 内 容	<p>(1) プログラミング教育の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画及び年間指導計画の作成</li> <li>・学習指導案についての研修</li> <li>・授業づくりの研究・実践</li> <li>・ICTを活用した授業方法の開発</li> <li>・授業評価表の活用</li> </ul> <p>(2) 学力向上のための取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人カルテの作成</li> <li>・全国学力学習状況調査・標準学力調査</li> <li>・市販テストの分析と活用</li> <li>・関わり合いのステップアップ</li> <li>・ノート指導の充実</li> </ul> <p>(3) 基礎学力定着のための取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数指導・TT指導 ・みなみタイム</li> <li>・基礎学力タイム・パワーアップ</li> <li>・計算力・漢字力テスト</li> </ul> <p>(4) 家庭学習の習慣化と質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習アンケートの実施と分析</li> <li>・家庭学習の手引きについて</li> <li>・自主学習の達人</li> <li>・なかよしタイム</li> </ul>	<p>(1) 道徳実践の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ</li> <li>・整理整頓 (靴箱・ロッカー・トイレ)</li> <li>・学校美化 (掃除)</li> <li>・登下校の歩き方</li> <li>・廊下の歩き方</li> </ul> <p>(2) 縦割り班活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なかまづくり</li> <li>・読み聞かせ</li> </ul> <p>(3) 家庭・地域社会とともに進める道徳教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育ハンドブック「家庭で取り組む 高知の道徳」の活用</li> <li>・家庭・地域社会へ道徳教育の発信</li> </ul> <p>(4) 学校・学級環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級・学校きらし</li> <li>・学級づくりのポイント</li> <li>・QUアンケート</li> <li>・グループエンカウンター</li> <li>・児童理解を深める活動</li> <li>・生活づくり (いきいきカード)</li> </ul>
 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center; margin: 0;"><b>自ら考え、判断し、表現できる児童の育成</b></p> </div>		

#### 4. 今年度の主な取り組み

- (1) プログラミング教育を中心とした学力向上に関わる内容
- ① プログラミング教育の研究
    - ・プログラミング教育の全体計画及び年間指導計画の作成
    - ・プログラミング教育の授業づくりの研究
    - ・ICTを活用したプログラミング教育の授業方法の開発
    - ・授業評価表の活用
  - ② 学校ぐるみの基礎学力の定着と学力の向上等の充実
    - ・個人カルテの作成
    - ・基礎学力定着のための取り組み
    - ・全国学力学習状況調査・標準学力調査・市販テストの分析と活用
    - ・授業評価表の活用
    - ・家庭学習の定着と質の向上
  - ③ 個別の支援を必要とする児童への対応のあり方
    - ・放課後支援教室
- (2) 児童理解に関わる内容
- ① 道徳実践の指導
  - ② 縦割り班活動の充実
  - ③ 家庭・地域社会とともに進める道徳教育の推進
    - ・道徳教育ハンドブック「家庭で取り組む高知の道徳」の活用
    - ・「いきいきカード」の活用
  - ④ 学校・学級環境づくり

### (3) プログラミング授業研究

日	学年組	授業者	資料名
10/16	4年1組	岡田	変わり方調べ
10/24	4年2組	喜多	月の動き
11/6	2年2組	濱田	かけ算
11/14	6年	山岡	形が同じで大きさが違う図形を調べよう
12/4	3年2組	小松	豆電球にあかりをつけよう
12/11	1年	山本	ひき算
12/11	3年1組	上田	豆電球にあかりをつけよう
12/11	5年	清水	電磁石の性質
1/29	2年1組	景平	図を使って考えよう

## 5. 今年度の成果と課題

- プログラミング教育を通じて育成すべき資質・能力を身に付けることができるよう研究を計画し、講師を招聘しての学習会、校内研修における教材研究や授業研究を、改善を繰り返しながら行うことができた。
- 児童アンケートの結果では、9割以上の児童が、物事を順序立てて考えることは他の学習にも役立ったと感じていることから、児童はプログラミング教育の有用性に気づいていることが分かった。教員アンケートの結果では、8割以上の教員が論理的思考力を高める学びの視点に沿った授業とはどんな授業なのかを理解でき、プログラミング教育の授業イメージを少しずつ持つことができています。
- 先進校の実践事例を参考にしながら、全学級で1学期はアンプラグドによる授業を実践し、2学期以降はICTを活用したプログラミングの体験を取り入れた授業実践に取り組むことができ、論理的思考力を高める授業についての理解につながってきている。
- 指導の系統性や発達段階を考慮したプログラミング教育の全体計画及び年間指導計画を作成することができたので、来年度は年度当初から、全学年においてプログラミング教育を意図的・計画的に実施することができる。
- 令和元年度高知県学力定着状況調査において、算数科は両学年ともに全国平均+10P以上であることから、今年度算数科を中心にプログラミング教育の実践に取り組んできたことが成果となっている。
- 学力向上に向けての取り組みを、全校で統一しているため、家庭学習や基礎学力の定着に向けて、6年間継続して取り組むことができています。
- 学力調査の活用問題の正答率は、目標を達成できず、まだ弱さが見られる学年があり、思考力・判断力・表現力においては、課題が残る結果となった。論理的思考力の十分な育成までには至っていない。
- 学力向上に向けての取り組みは、個人差が大きい為、更に一人ひとりに対応した手だてを検討していく必要がある。
- 教員アンケートの結果は、目標値の8割を上回り、論理的思考力を高める授業づくりに取り組むことにつながってきている。しかし、81.3%と数値が十分高いとは言えないため、さらに論理的思考力を高める学びの視点に立った授業づくりについての共通理解を図りながら研究を進めていく必要がある。

#### 《来年度に向けて》

- プログラミング教育の研修を校内研修の年間計画に位置付け、継続して取り組んでいく。算数科を中心とした実践はもとより、他教科でも論理的に物事を考える力を育む授業づくりを進めていく。
- 思考力・判断力・表現力を高めていくためには、今後もアンプラグドの授業を大切にしながら、プログラミング的思考の育成を図り、各教科の目標や内容の理解を深めるような授業づくりを行っていく。
- 年間指導計画の見直しを行いながら、6年間を見通した系統的な指導の充実を図り、創意工夫した実践をしていく。